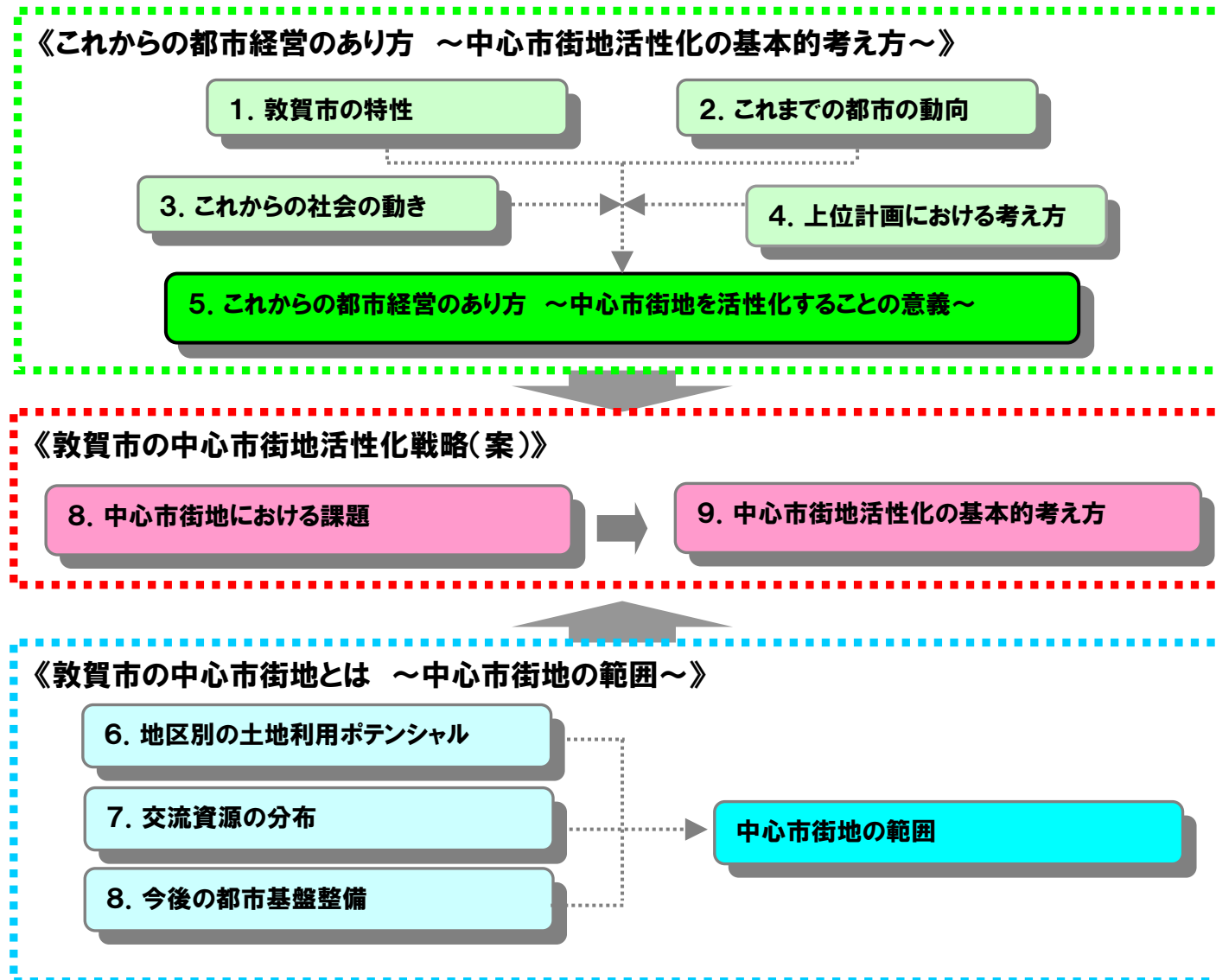


敦賀市の中心市街地活性化戦略(案)について

中心市街地活性化基本計画検討のフロー



1. 敦賀市の特性

《敦賀市の歴史的背景》

● 古くから港を中心にひらけたまち

- ・古くから「敦賀」という地名が用いられていた（712年に角鹿から敦賀に改められた）
- ・渤海国の賓客を迎える迎賓館「松原客館」が置かれていた
- ・海陸交通の要衝として、古代三関の一つ「愛発の関」が設けられていた

● 中世以降、港まちとして大きく発展したまち

- ・北前舟の寄港地として、当時、わが国最大の港町として栄えていた
- ・明治期には横浜、神戸、関門とともに、「国営4港」の一つに指定
- ・欧州に通じる「欧亜国際連絡列車」の結節拠点港として国際港湾の役割を果たす

● 近世以降、工業地域として発展したまち

- ・昭和以降、東洋紡敦賀工場を誘致するなど、交通利便性を活かした工業地域として発展している
- ・1960年以降、原子力発電所が立地するほか工場誘致が進み、市街地が南と西にかけて拡大している

《敦賀市の立地と交通条件》

● 京阪神、中京、北陸、丹後・山陰地域の結節点

- ・ JR敦賀駅には、JR北陸本線、湖西線、小浜線が乗り入れ、京阪神、中京、北陸、丹後・山陰地域を結ぶ結節点となっている
- ・ 現在、特急列車が京都・大阪、名古屋方面へ連絡しているほか、昨年10月より新快速電車が乗り入れ、関西方面への利便性が拡大している
- ・ また、北陸自動車道も、各地域を結んでいるほか、今後、舞鶴自動車道の延伸に伴い、交通結節点としてのポテンシャル向上が期待されている

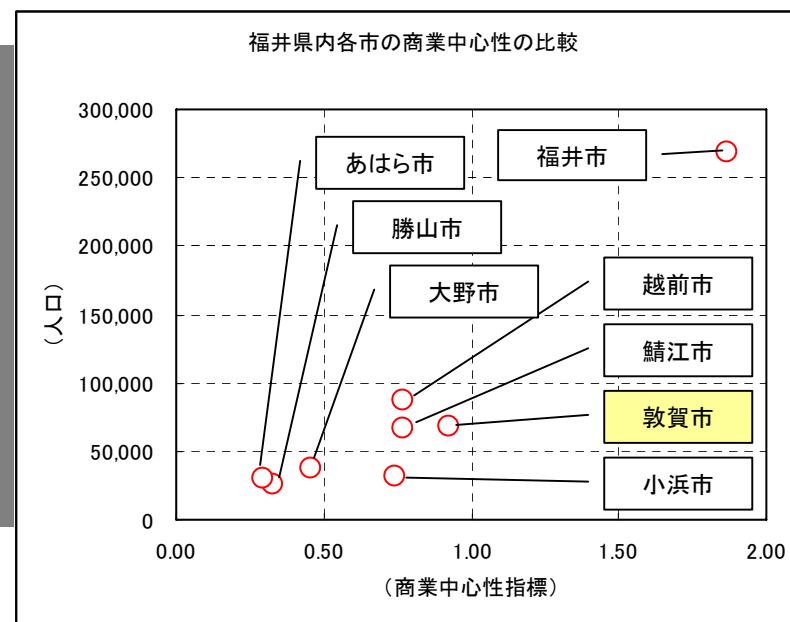
● 関西、中京地域から最も近い日本海沿岸の都市

- ・ 京都から1時間、大阪と名古屋から1時間半という、太平洋側の大都市に最も近い日本海側の都市であり、北陸地域へ、さらには環日本海地域の玄関口としての役割を担っている
- ・ 大都市からの時間距離の短さから、日本海側の自然レクリエーションや海の幸を求めて多くの観光客の訪れる都市である

《敦賀市の都市環境条件》

● 自立した経済圏域を有する都市

- ・敦賀市の昼間人口比率（昼間人口/夜間人口）は1.02と、若干流入超過の状態にある
- ・敦賀市内の従業者の自市町内就業率は91.4%と、大半の人が敦賀市内で働いている
- ・敦賀市の商業中心性指標（福井県平均一人当たり商業消費額に対する敦賀市平均の比率）は0.92と、福井市に次いで高い値を示している



● 市域の北を日本海に、その他を森林に囲まれる自然豊かな都市

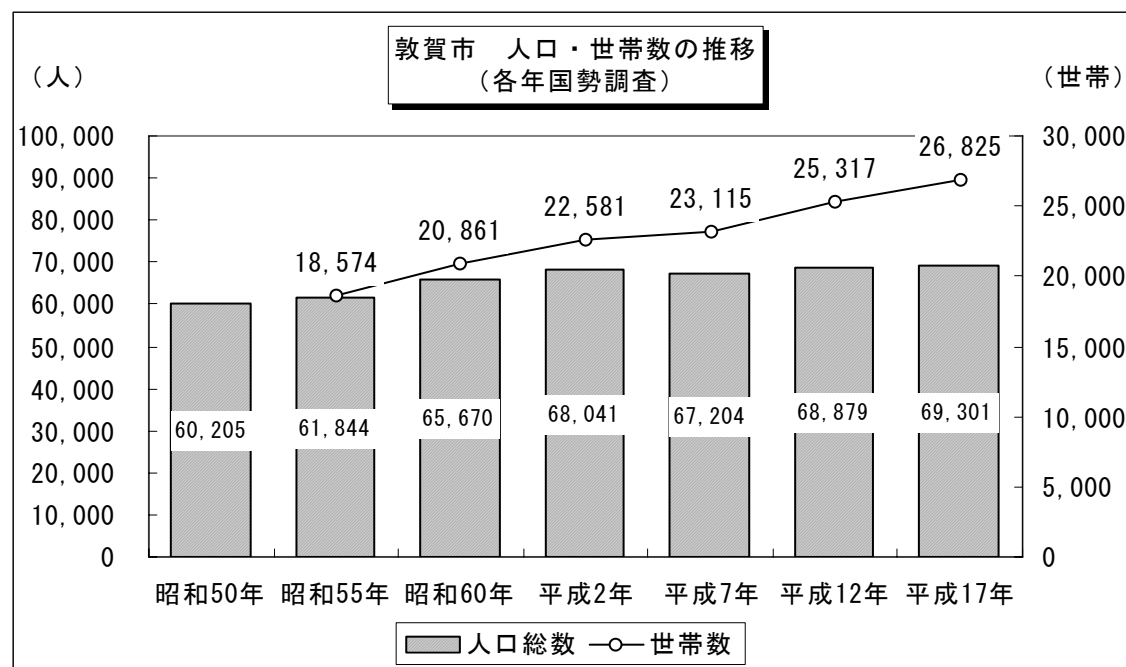
- ・市域の大半が森林で占められるなど、緑豊かな地域である（平成17固定資産概要調書では、市域の6割が山林）
- ・敦賀湾を取り囲むように市域が形成されており、沿岸はリアス式海岸の自然海岸で占められるほか、気比の松原などの自然のレクリエーション拠点が点在する

2. これまでの都市の動向

《敦賀市の人口の動向》

● 着実な人口増加を果たしている

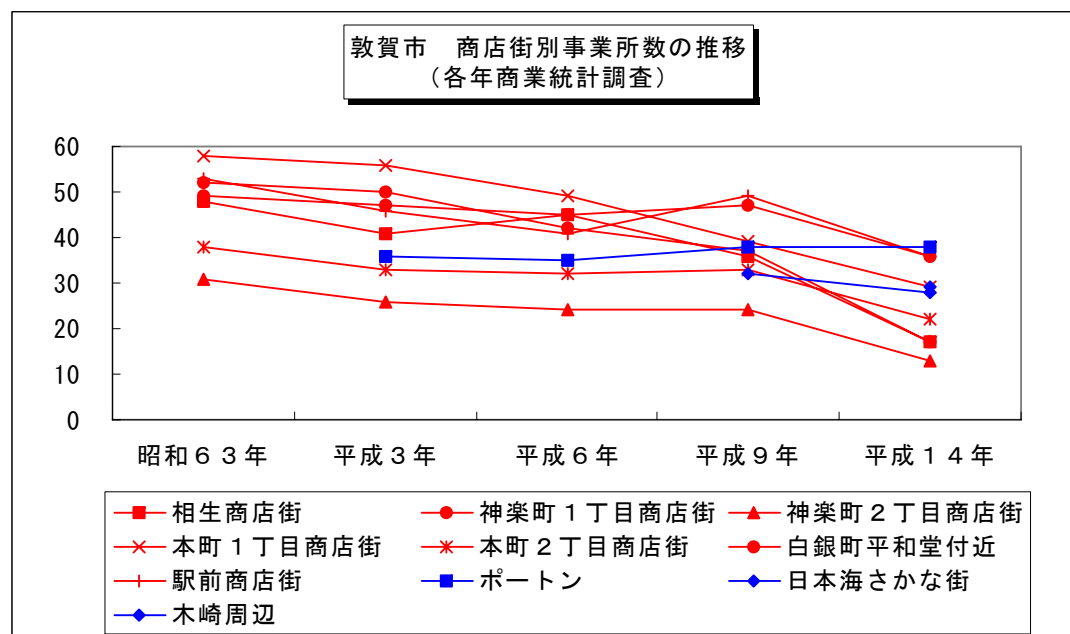
- ・昭和50年に人口が6万人に達した後も、着実に人口増加を続け、平成17年には6.9万人となっている
- ・世帯数は、人口増加を上回る勢いで増加しており、平成17年には2.7万世帯となっている



《市街地の商業の状況》

● 既存市街地の商業活力が低下している

- ・ 敦賀市の地域別の商業の動向についてみると、既存市街地にある商業地区（赤線）は、いずれも衰退傾向にあり、特に平成9年から平成14年にかけては、のきなみ低下している
- ・ 一方、郊外に立地する商業地区（青線）における商業活力が、既存市街地の商業地区と比較して相対的に向上している

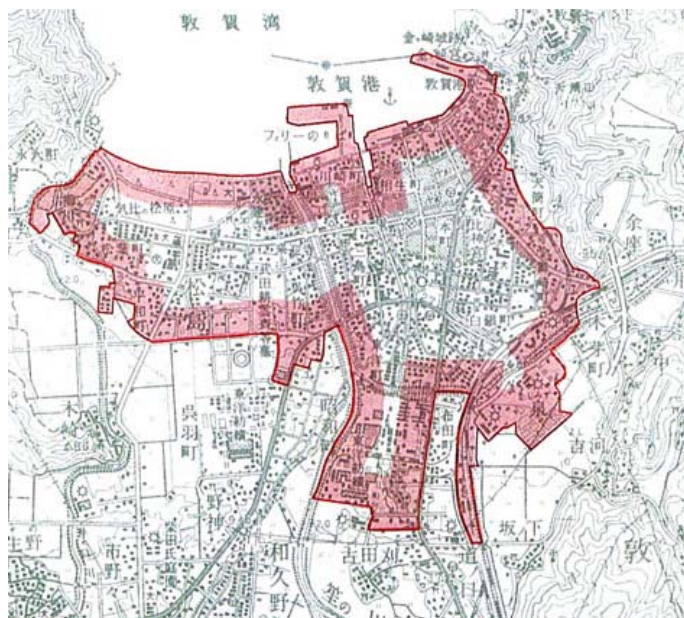


《市街地（D I D地区）の変遷》

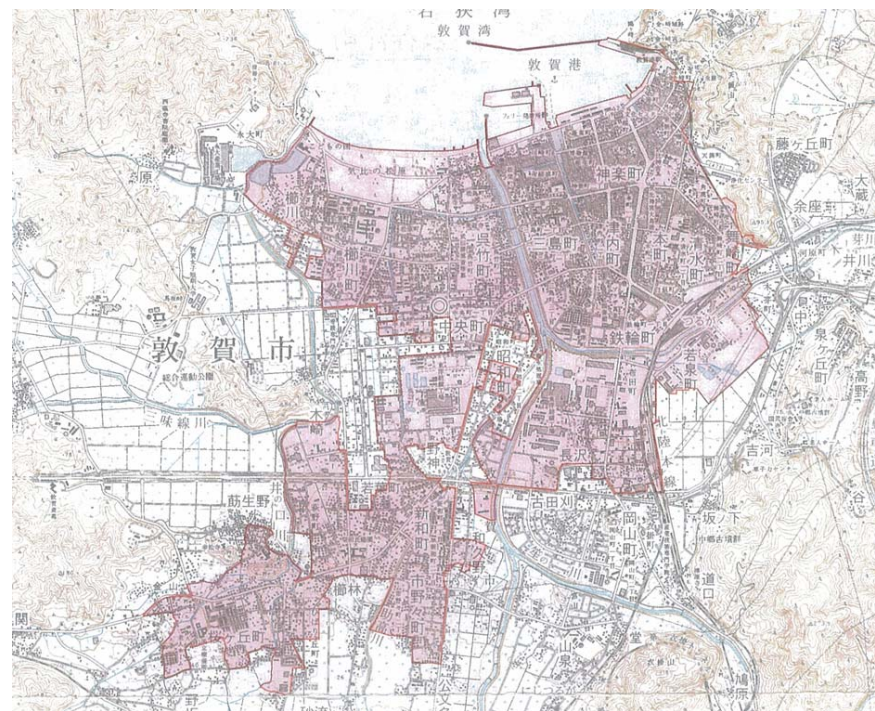
● 市街地（D I D地区）が拡大している

- ・ 昭和60年時点のDID地区と平成12年時点でのDID地区を比較すると、市街地が南西方向に拡大している様子が伺える
- ・ 昭和60年時点には6.5km²であったDID地区が、平成12年時点には10.38km²と約1.6倍に拡大している

昭和60年DID地区



平成12年DID地区

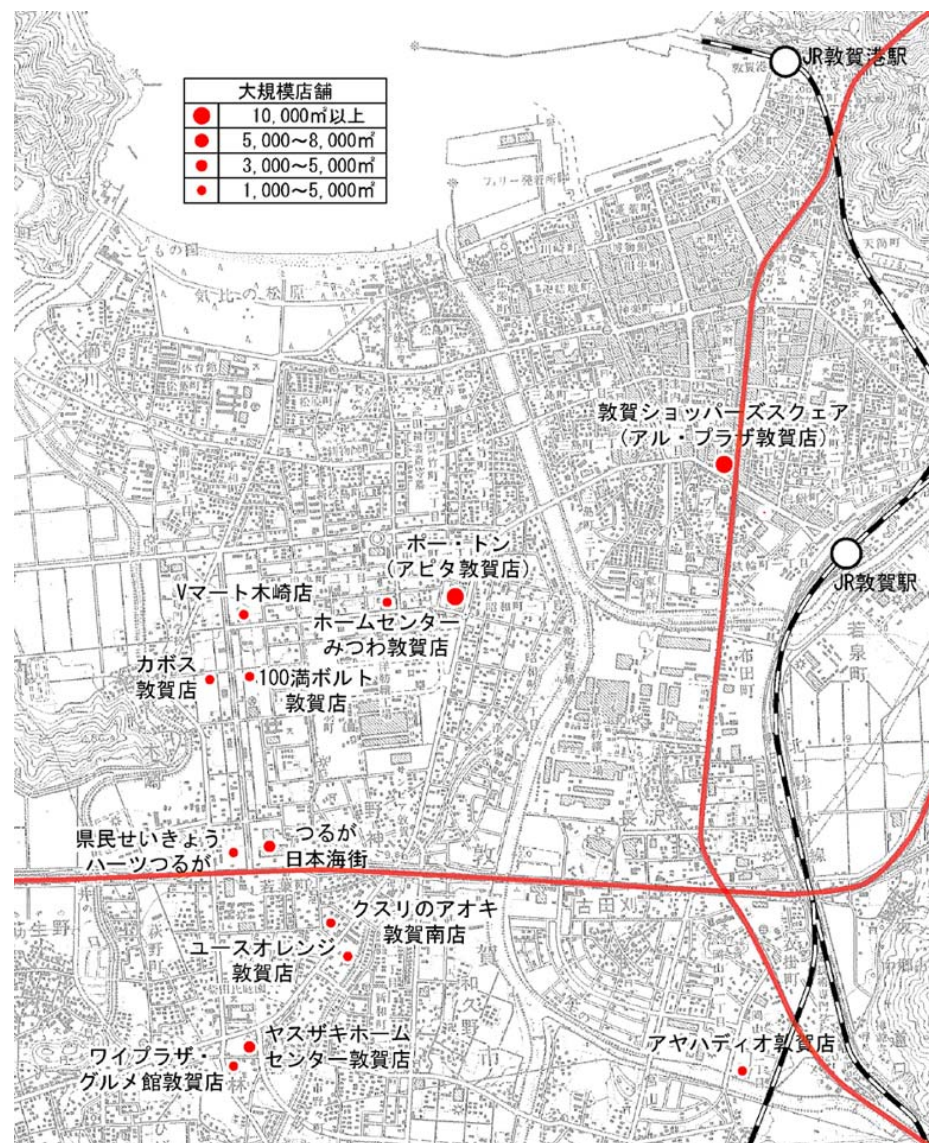


※ DID地区（人口集中地区）
市区町村内で、人口密度の高い位区（原則として人口密度が4,000人/km²以上）が隣接して、その人口が5,000人以上となる地域

《大型店舗の立地状況》

● 大型店舗の郊外立地が進んでいる

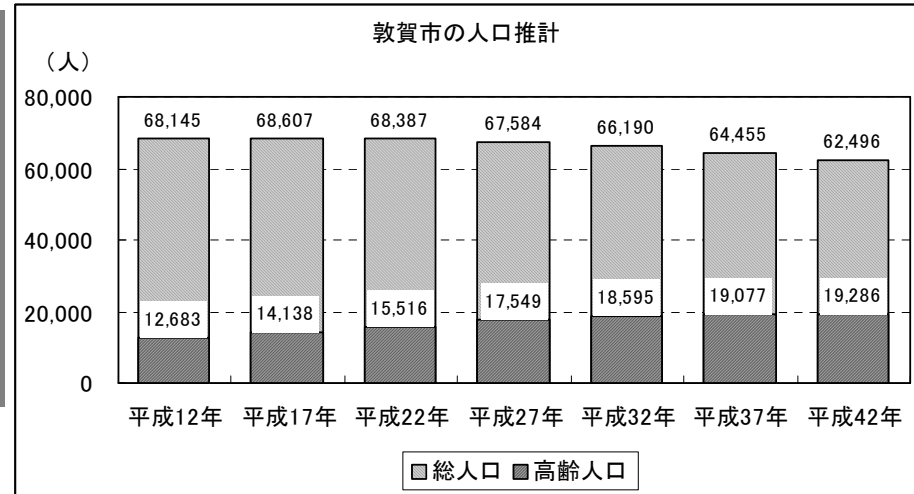
- ・ 敦賀市内には、13の大型店舗が立地しているが、その大半は、郊外部に立地している
- ・ 1万㎡を超える店舗は、駅前と市役所付近にある2店舗のみで、その他は5,000㎡未満のものが、大半を占める



3. これからの社会の動き

● 人口減少・超高齢化社会の時代を迎える

- ・国立社会保障人口問題研究所の平成15年2月の推計によると、敦賀市の人口は徐々に減少していくことが予想されている
- ・一方、高齢者人口は年々増加し、約20年後には、約30%が高齢者になると予想されている



● 低経済成長の時代を迎える

- ・わが国は、戦後の高度経済成長を経て先進国となったが、バブル経済崩壊後、経済の低成長時代に入ったといわれており、産業界はもとより社会全体として大きな転換期にさしかかっている

● 環境が重視される時代を迎える

- ・地球全体としての二酸化炭素の排出規制への取り組みなど、地球環境の保全が大きな課題となっており、これまでの経済優先、効率優先の社会から、自然保全を重視する社会形成が求められている

● 環境と共生するライフスタイルが広がる時代を迎える

- ・近年、大量生産・大量消費の反省から、スローライフ、地産池消など、地域の環境と共生する暮らしが広がっている

4. 上位計画における考え方

現在、検討が進められている総合計画において、中心市街地に関して、以下のような方向性が示されている。

● 中心市街地のまちづくり

- ①魅力ある店づくり（ハード）
個性と魅力ある店づくりの支援、家賃を助成による中心市街地での創業・起業の支援 等
- ②商店街の環境整備
歩道のバリアフリー化、駐車場の確保、相生町周辺の道路整備や電線地中化・ライトアップ 等
- ③商店街への居住促進（ハード）
「まちなか居住」の推進、公営住宅及び優良賃貸住宅の中心市街地での整備 等
- ④魅力あるイベント等の実施
各種イベントの充実、民間活力を生かした賑わいのある街づくり支援 等

● 敦賀駅周辺のまちづくり

- ①敦賀駅舎の改築（ハード）
駅舎の改築 等
- ②駅周辺の整備（ハード）
敦賀駅周辺の多機能空間としての再整備、駅西地区の土地区画整理事業、駅東地区の活用可能性検討 等
- ③交通網の利便性向上（ソフト）

● みなとのまちづくり

- ①赤レンガ倉庫・博物館（ハード・ソフト）
歴史資源の活用、レトロ建築を活かした港の修景整備・ライトアップ、博物館の長期的な活用 等
- ②きらめきみなと館（ソフト）
きらめきみなと館のイベントホールや小ホールの有効活用 等
- ③水産卸売市場（ハード）
水産物産地市場の改修に合わせた小売機能や食の機能の整備 等
- ⑤統一的な整備（ハード・ソフト）
歴史文化資産や新しい拠点のネットワーク形成、敦賀港の貴重な歴史文化資産を保全・活用した景観形成 等

5. これからの都市経営のあり方 ～中心市街地を活性化することの意義～

● これまでの投資を活かした効率的な都市経営

- ・人口減少時代、経済の低成長時代を迎える中で、これまでの都市経営（都市への投資）のあり方について見直すことが求められている
 - ・暮らしの満足度を高めるためのより高いサービス提供や、交流を促す魅力的な都市づくりに向けては、基礎的基盤が整備され多様な資源を有する既存市街地のリニューアルを進めていくことが考えられる
- ⇒ 選択と集中による都市への投資により集積度の高い市街地の形成
- ※ 中心市街地の認定において、準工業地域における大規模店舗の立地規制を行うことが求められる

● 高齢者が地域で暮し続けることのできる都市経営

- ・高齢化が進展する中で、高齢者が安心して快適に暮せる地域づくりを進めることが求められている
 - ・敦賀市の既存市街地は、戦後復興の中で他都市と比較して、しっかりとした基盤が形成されており、歩道のバリアフリー化や既存施設の有効活用による各種サービスの提供により、比較的容易に高齢者にやさしいまちづくりの展開が可能であると考えられる
- ⇒ 既存市街地のリニューアルによるコンパクトで暮しやすい市街地の形成

● 交流人口の拡大に向けた都市経営

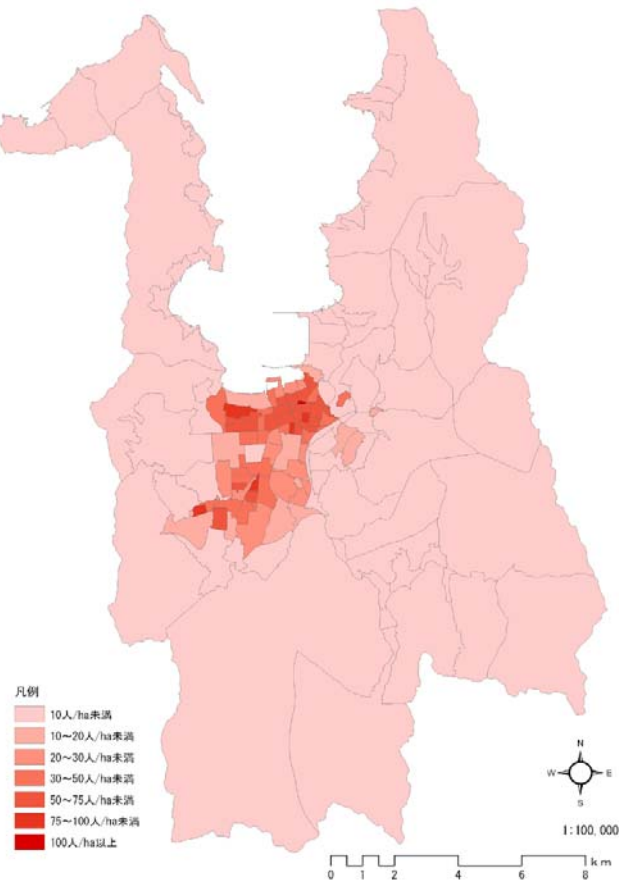
- ・全国的に人口減少が進む中で、交流人口の拡大による地域の活性化が期待されている。
 - ・敦賀市は、大都市に比較的近い、海洋資源の豊富な地域として、多くの観光客を呼んでいるが、今後は、さらに地域の有する歴史・文化を活かした、交流人口の拡大を進めていく必要がある
- ⇒ 既存市街地の特有の歴史・文化、自然資源を活用した交流産業の展開

6. 地区別の土地利用ポテンシャル

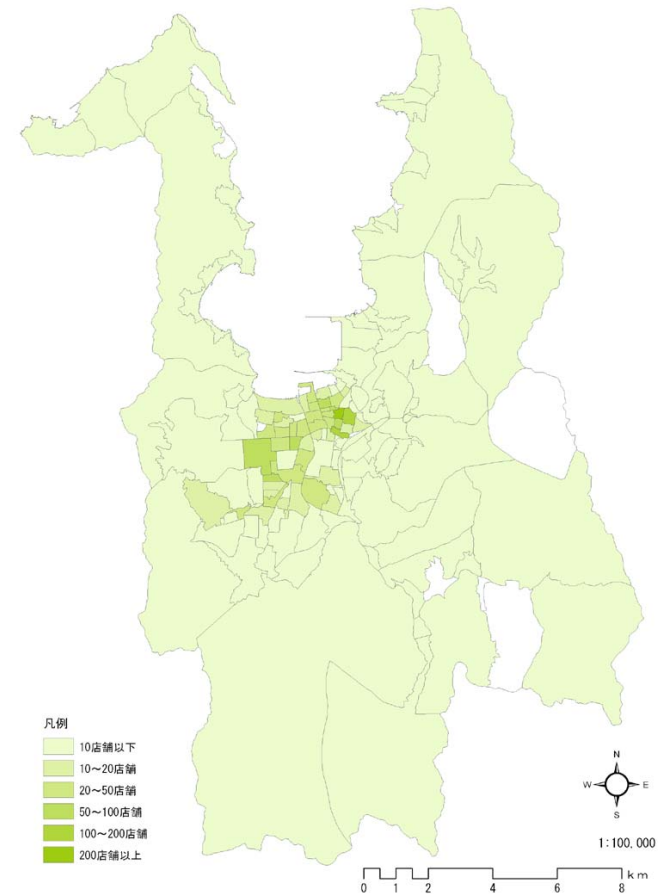
● 既存市街地周辺に人口密度の高い地域が多く、事業所も集積している

- ・ JR敦賀駅から気比神宮にかけてのエリアに、人口密度の高い地域が集積している
- ・ 特に、事業所は既存市街地周辺に立地している

敦賀市 町丁別人口密度



敦賀市 町丁別店舗・飲食店数



7. 交流資源の分布

● JR敦賀駅から港にかけて、多くの交流資源が分布している

- ・ JR敦賀駅から気比神宮にかけて、商業店舗が集積する商店街が形成されている
- ・ 気比神宮から港周辺にかけては、古くからのまちなみなど、古くからの敦賀のまちなみが形成されている
- ・ 港周辺には、赤レンガ倉庫といった、国際港湾としての面影が残るほか、近年、各種の施設が立地している



8. これからの都市基盤整備

● 駅周辺において都市基盤整備が進められる

- ・ 敦賀駅舎改築事業
- ・ 駅前広場改修事業
- ・ 駅西地区土地区画整理事業
- ・ 駅周辺土地活用事業（土地区画整理事業地への民間事業者誘導）

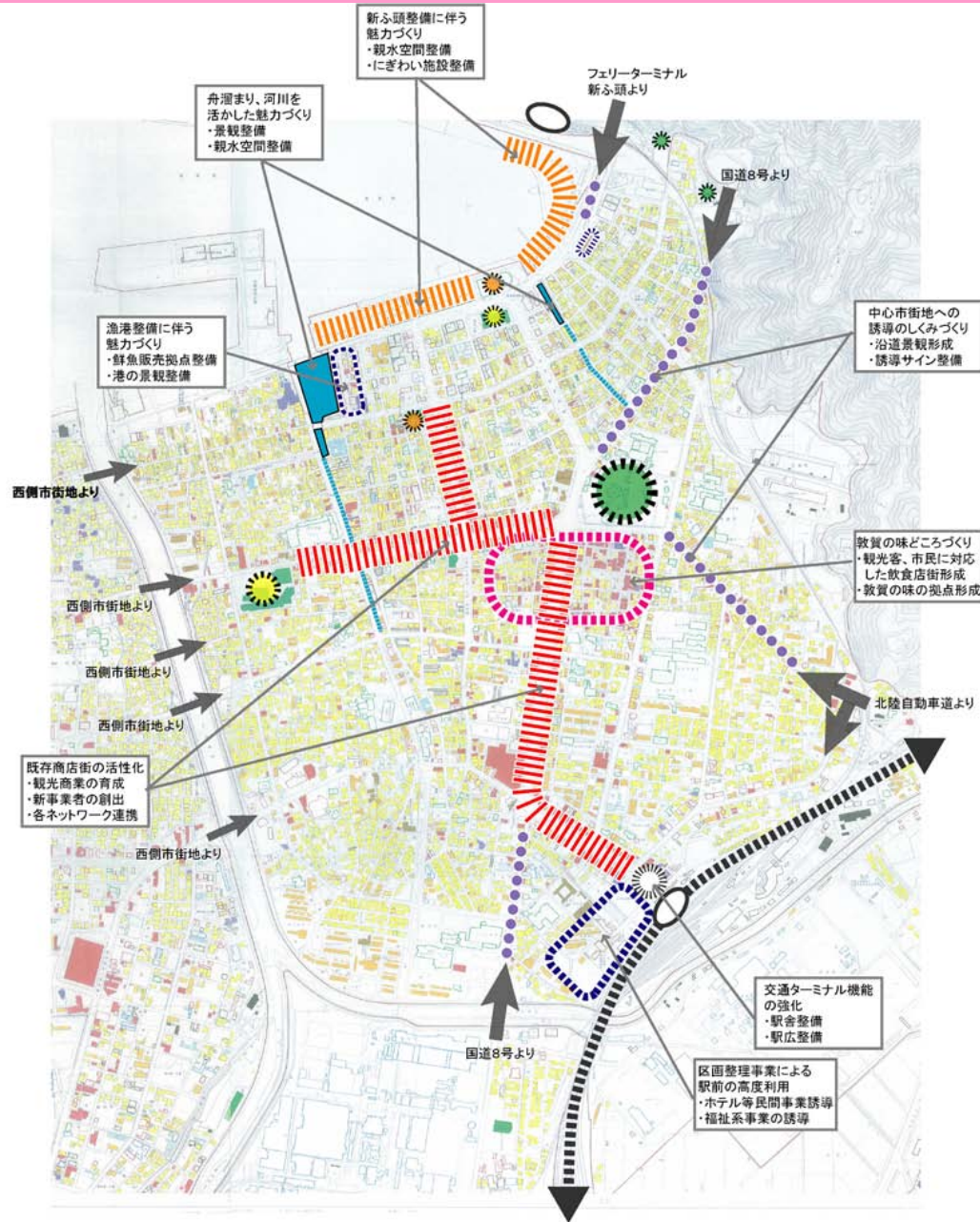
● 港湾機能の移転により、港の有効活用が進められる

- ・ 敦賀水産卸売市場建設事業
- ・ 水産物直売所建設
- ・ 金ヶ崎緑地周辺整備
- ・ 港湾機能の移転に伴う跡地活用

● 国道バイパスの整備に伴い広幅員の国道8号の道路空間の有効活用が進められる

- ・ 国道8号の道路空間の有効活用

9. 中心市街地における課題



10. 中心市街地活性化の基本的考え方

